

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	プラスアップ船橋教室		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後デイサービスの利用児童と一緒に活動するので、お手本となり真似れる機会が多く、言語・運動共に吸収が早くできる事。	なるべく子ども同士で取組みが行えるような環境を作り、児童発達支援の子が目指したいお兄さん・お姉さんができるように設定しています。	その子の成長度合いに応じて、自ら発表する場を作り、自己固定感があがる機会を設けていく。
2	小学校に向けての運動や学習の取組みができる。	視覚的な情報が入りやすい児童が多い傾向が見られるので、視覚的支援を中心とした取組みを増やす。 小学校入学までに、出来る限りの自立を目指した取組みを行う。	個別支援内容をスタッフで共有し、児童が混乱しないように出来る限りの「統一支援」を心がけていく。
3	できた事を可視化して、本人ができた事を一つずつ確認できるようにしている。	個別で目標カードを書き、できたところにシールを貼ってもらい、自分は何ができるのかを確認してもらう。	保護者とこまめな情報共有して、自宅と外でできている事を共通認識していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の利用児童数が少ない。	高額年が半数以上なため、体の大きさや力の違いから、新規で児童発達支援の子を取りづらい環境にある。	個別支援の取組み内容の幅を広げて、集団と個別で学べる環境を整える必要がある。
2	放課後デイサービスの児童と一緒に活動を行っているため、同年代での療育ができない。	長年利用している児童が多いため、どうしても放課後デイサービスの比率が高くなる。	放課後デイサービスの児童と一緒に療育をしていく事の効果を、明確に保護者様に伝えて行く必要がある。
3	集団療育の内容によっては難しいと感じてしまうことがあるかもしれない。	一緒に活動しているお友達ができてばかりいると劣等感を感じてしまうかもしれない。	スモールステップの目標を本人に伝えドンドンできるようになっている事を知ってもらうために、視覚的に伝わる支援内容を提供する。